

◎ポーデ数

ポーデ則で出た数は數學的遊戲によつて面白い關係がある。

遊星	ポーデ数	
水	4	= 4
金	7	= 7
地	10	1+0 = 10
火	16	1+6 = 7
小	28	2+8 = 10
木	52	5+2 = 7
土	100	10+0 = 10
天	196	1+9+6=16 1+6=7
海	388	3+8+8=19 1+9=10

ポーデ数に9をかけるまは百萬哩單位の距離が出る同様に處理して

遊星	ポーデ数×9	
水	4×9=36	3+6=9
金	7×9=63	6+3=9
地	10×9=90	9+0=9
火	16×9=144	1+4+4=9
小	28×9=252	2+5+2=9
木	52×9=468	4+6+8=18 1+8=9
土	100×9=900	9+0+0=9 =9
天	196×9=1764	1+7+6+4=18 1+8=9
海	388×9=3492	3+4+9+2=18 1+8=9

最後に出て來た数は9ばかり。9をかける代りに6をかけるま6ばかりそろう。9の倍数をかけるま同様な結果になる。暇な人は試みて面白からう。E. M. (中村)

◎反射望遠鏡だより

去る十二月にスレード氏反射鏡の事を紹介した所早速數氏より來信がありスレード氏の提出せる六時半鏡は大阪の植村氏の手に入る事となり、又尾道市の松本氏は新しきマウンティングの總てを希望され一月に注文を終つた植村氏の六時半は三月始めにすでに發送され松本氏のもは新しき鏡とマウンティングの作製の爲め約二箇月を要する事の事である。焦點距離は約56時の豫定であり倍率は60、120、240、の三個が附屬される筈で全部の價格は32ポンド10シリングである。

エリソン氏は約二箇年の苦心の末やうやく最初の鏡を作り1906年には整形の新方法を發見し此の年から製作を始めて昨年5月までに自

作品は133個を作つた、此の間同氏の教えた人は甚だ多いが其の中で完全に成功せるものは僅か二人であり其の一人はスレード氏であるま度々公表して居り嚴重なるエリソン氏の自慢せる一人である。スレート鏡が果して如何なる程度のものであるか甚だ興味が有り、到着試験が終り次第結果を御知らせしたい。

エリソンの Amateurs telescope は反射鏡製作に關する最近の方法を記載せる唯一の著書であり3年の缺陷を満したものであるが此の著は英國に於ては English Mechanics 社に發行され最近米 Scientific American 誌が權利を得て米國に於ても發行される事となつた。

エリソンの記事が正確なる事は言ふまでもないが幾分描畫の不足の爲素人には困難な點があり此の缺點を満す爲に來の R. W. Porter 氏は Scientific American の二月號に多數の圖及エリソンの詳細にわたる説明を缺いて居る。フュー試験等の良好なる記事を發表して居るエリソンの論敵たる英ヒンドル氏及びポーター氏もエリソンの著が最良の者である事を證明して居り、ポーターが1921年 Popular Astronomy に書いた Poor Man's telescope の如きは整形の點に於て甚だ古いものであつたが前記の雜誌に於ては根本的の改良を説明して居る。(中村)

◎ヒケリング氏の近況

火星觀測に關する最良の報告であるヒケリング氏の Martian Associate の1924年の箇の報告は Popular Astronomy 三月號に發表された。此の第一圖はヒケリング、ハミルトン、ウイールソン及びリツク36時を使用せるトランブラー四氏の描畫の比較であり極めてよく一致せる結果を示して居る、アシアの觀測者の報告及び統計は同誌5或は6月號に發表される筈である。公式には發表されて居ないがヒケリング氏はジャマイカ觀測所を退き同所に私立天文臺を設立せる模様である。其の設備としてカルヴァー13時鏡が備付けられる事となり四月中にジャマイカに到着の豫定である。偶然さと言ひながら同氏の送られた寫眞によると京大天文臺の13時鏡と口径、製作者、器械部等、全然同一型のものがヒケリング氏の手に入つたもので京都とジャマイカの結果の比較等の爲にも甚だ興味が深い。(中村)